

◆ 冬休み特別コラボ企画

「組子体験 ☆ オリジナルの壁掛けを作ろう！」

雪の舞う1月12日、社協矢沢支部では、矢沢地域振興会と協力して、矢沢小学校児童と明老大学生との世代間交流事業を実施しました。当日は児童親子・明老大学生・講師（地元の三瓶輝男さんはじめ8名のものづくりマイスター）・スタッフ等58名が参加、講師の指導でオリジナルの壁掛け作りに熱心に取り組みました。参加者からは「みんなで協力して出来て良かった」「講師の方が優しく教えてくれ、材料も用意してくれ有難かった」「子どもたちと一緒に楽しかった」などの感想が寄せられました。



講師のマイスターの皆さんを紹介する佐藤和見支部長



綺麗に完成した壁掛



組子作成に取り組む参加者

この記事は「季刊やまぼうし第47号」にも掲載予定

○ 2回目の介護予防教室は 3B体操を中心とした健康体操

この冬一番の強い寒気襲来の1月25日、寒さにもめげず、12名の参加者は用具を使っての3B体操、今日も元気に頑張ろう！



高橋良子先生



1月25日
3B体操

○ 矢沢地区地域リーダー研修会のお知らせ

今年度のリーダー研修会は、今計画が進んでおります矢沢地区の義務教育学校について、取組状況や課題等を矢沢中学校校長の佐々木律夫先生にお話していただくことになっております。ご聴講をお願いします。

日時：2月14日（水）18時00分

会場：矢沢振興センター大広間

講師：矢沢中学校・佐々木律夫校長

演目：矢沢地区における義務教育学校
(1時間30分)



○ 高齢者介護予防教室で躍動！

今年も高齢者事業部会による高齢者介護予防教室が始まりました。1回目は1月17日に14名の参加で佐々木八重子先生の指導によるジャズ体操が行われました。参加の皆さんは久しぶりに体を動かし、気分もリフレッシュしていました。

☆ 2月の予定（いずれも10時～）

2月9日（金）：ラージャヨーガ（バスタオル持参）

2月13日（火）：エアロビクス・チベット体操

2月19日（月）：まんてん教室



講座に先立ち挨拶（矢沢地域振興会 佐々木八重子先生
佐藤和見副会長と伊藤裕子理事）



1月17日・ジャズ体操

背筋が大きく伸びます！エントリーの方是非参加を！

行政区対抗ニュースポーツ大会がありますよ！

矢沢地域振興会ニュースポーツ推進事業部会（伊藤昇部会長）では、4年振りに交流大会を開催することで進めています。各行政区の区長さんに選手選考等を依頼していますので、宜しくお願いします。

日時：2月25日（日）09時～11時

会場：矢沢振興センター講堂

種目：シャフルボード（2名）

 ディスゲッター（3名）

ニュースポーツを楽しみ、運動不足を解消して交流と親睦を深めましょう！



4年前の熱戦模様！

シャフルボードの一コマ パーフェクトなるか？集
応援団も必死です！ 中力発揮・ディスゲッター

◎ 今年度の矢沢地区交通安全祈願祭は2月17日（土）に行います！

交通安全協会矢沢分会（大森松司分会長）では、この1年の無事故を願い交通安全祈願祭を行います。

日時：2月17日（土）14時～

会場：矢沢振興センター大広間

なお、祭儀終了後、直会を行います。



✿ 移動図書館（ごんが号）運行日程 ✿

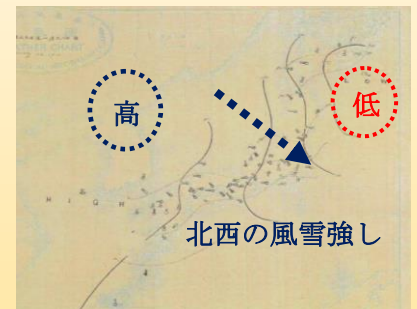
2/8（木）	団地会館	13：40～14：00
2/8（木）	福祉センター	14：15～14：45
2/14（水）	高木観音	09：20～09：50
2/14（水）	振興センター	10：05～10：35
2/14（水）	やさわこども園	10：50～11：20

【事務局員のつぶやき】（気象庁職員の先人「新田次郎」とは！）

日本の南海上で二つの台風が1,000 km以内に接近した時、お互いの台風は干渉しあい思わぬ進路をとることがあります。これを気象庁の人間は「藤原の効果」と呼んでいます。この存在を提唱したのは第5代中央気象台長（現在の気象庁長官）のお天気博士「藤原咲平」です。藤原咲平博士の甥で気象庁測器課長を最後に54歳（昭和41年）で依願退職した藤原寛人（ひろと）という方がおられます。この方が小説「強力伝」（直木賞）「孤高の人」「八甲田山死の彷徨」「富士山頂」「武田信玄」（吉川英治文学賞）等の山岳小説の作家として知られる新田次郎さんです。新田次郎さんは気象庁現職時代の昭和40年に完成した富士山気象レーダーの建設責任者であり、無線ロボット雨量計（無人の山岳地帯等での雨量観測機器）の発案者でもあります。また、新田次郎の奥さんは作家で昭和24年に発表した「流れる星は生きている」の作者の「藤原てい」さんです。この作品は戦時中満州の気象台に努めていた夫（新田次郎）と離れて、親子で満州から引き上げの実体験を基にした私小説で、当時のソ連占領地域を現した小説として評判で、ベストセラーとなり映画化もされました。

ちなみに、この時期になると今から121年前の明治35年1月末の日本陸軍第8師団歩兵第5連隊による八甲田雪中行軍遭難事件を思い起こします。この雪中行軍訓練により210名のうち199名の隊員が死亡しました。新田次郎はこの事件を題材として昭和46年に小説「八甲田山死の彷徨」を発表しています。昭和52年には森谷司郎監督により3時間に及ぶ長編として映画化されています。主な出演者は島田正吾・大滝秀治・高倉健・丹波哲郎・北大路欣也・三国連太郎・加山雄三・小林桂樹・緒形拳・栗原小巻・加賀まりこ・秋吉久美子など豪華な俳優陣となっています。好評により何回かテレビ放映がなされ、ご覧になった方も多いのではと思います。

吾輩がかつて3年間過ごした青森市は、北西の季節風の時、渡島半島や岩木山など地形の影響を受けて風の収束（風が集まる）ができ、津軽海峡の影響もあり大雪が続くことがあります。青森市は人口約30万以上の都市としては世界一の豪雪都市（平年の年間降雪量：青森567 cm・盛岡209 cm・湯田1065 cm、平年の最深積雪：青森101 cm・盛岡36 cm・湯田191 cm）として知られ、青森市の南側に連なる八甲田山系の酸ヶ湯温泉の積雪は3メートルを優に超え、（今年は1月16日327 cm）気象庁の観測点で積雪の一番多い地点となっています。平成25年2月26日には積雪565 cmの過去最大値を記録しています。この豪雪地での真冬1月の雪中行軍訓練は如何に厳しいものであったのか想像に難くありません。



明治35年1月24日の天気図（雪中行軍訓練中の遭難時）昔は観測点が少なく、海外からの情報もない状況での天気図作成でした。吾輩の若い時代は手作業天気図。今はコンピューター作成の時代。